



2022年に中途で入社し、早くもその仕事ぶりで注目を集めている社員がいる。日々の業務から改善の糸口を見つけては提案を行い、新しい挑戦にも笑顔で挑む、そのような仕事への情熱の源泉に迫る。

畑違いの挑戦で見つけた、 自分らしくいられる場所

社会人としてのキャリアは、機械製造業の営業職から始まった。産休・育休を経て復帰後、未経験の設計業務へ異動するが、専門知識の壁にぶつかり退職を決意する。

そこで次に転職活動で重視したのは、「家からの近さ」と「アットホームな社風」だ。面接で感じた温かな人の雰囲気、名異発條への入社を決める大きな理由となった。

当初は再び営業職として新たなキャリアをスタートさせたが、業務の一環で品質保証の仕事を手伝うことになった。不良品の選別や測定機の操作といった未知の作業に触れるうち、「新しいことに挑戦するのは嫌いではない」という自身の探求心に気づく。その後、品質保証グループに欠員が出た際、「やってみないか」と声がかかると、迷うことなく新たな挑戦の道を選んだ。

「誰かがやるなら私がやる」という想いが 業務改善の原動力

品質保証グループに異動して以来、その主体性を遺憾なく発揮する。日常業務に潜む非効率な点を見つけ出し、改善していくことに意欲を燃やす。

例えば、長年使われてきた古い書式のExcel

フォーマットを見やすく作り直した。また、ある製品の測定方法に無駄が多いと感じれば、時間短縮につながる新しいプログラムを自ら作成することもあった。

なぜ、次々と改善点に気づき、行動できるのか。その根底にあるのは「負けず嫌い」な性格と、「どうせやるならきちんとやりたい」というシンプルな信条だ。さらに仕事もきちんとこなす。その姿勢は、突発的な業務への対応にも表れる。

「結局、誰かがやるのであれば、私が引き受けようと思います」。

急な資料作成や検査依頼が舞い込んでも、決して「NO」とは言わない。これを可能にしているのが、巧みな時間管理だ。「今週中」と依頼された仕事でも、今日か明日には終わらせるようにしているという。常に仕事を前倒して進め、不測の事態に備える「余白」を自ら作り出しているのである。



▲飲み会の席にて上司との1枚

知る楽しさと集中力で掴んだ 確かな自信

未知の分野への挑戦を楽しむ姿勢は、資格取得にもつながる。品質管理の知識を体系的に学ぶため、次に目標としたのは「QC検定3級」の取得だ。多忙な中で勉強時間を確保するのは容易ではないが、短期集中型の学習法を選んだ。試験前の1週間、1日2〜3時間集中して取り組んだと語る。ひたす

ら過去問題と向き合い、間違えた箇所を徹底的に分析して理解する手法を貰った。



原動力は「一度で済ませたい」という強い思いだ。この試験は年に一度しかなく、来年また同じ勉強を繰り返すのは時間がかからない。そのような合理的な思考と、驚異的な集中力が見事一発合格へと導いた。この経験は、大きな自信をもたらした。

次なる挑戦へ、 頼られる存在を目指す挑戦の日々

数々の経験を重ね、着実に成長してきたからこそ、今また新たな挑戦のスタートラインに立っている。これまでの検査業務から、原因究明や対策書作成まで担う「客先対応」へと仕事の幅を広げたのだ。検査がOKかNGかを判断する業務から、「なぜ不具合が起きたのか」を深掘りする仕事へと専門性は格段に高くなる。しかし、壁に直面しながらも、心は前を向く。困難を乗り越えるため、上司の指導や現場との対話を重ね、知識を血肉に変えている最中だ。

はっきりとした答えを求める性格は、原因を突き止めていくこの仕事と合っていると自身で分析する。「客先対応を一人でこなせるようになり、皆から頼られる存在になりたい」。今後の目標を力強く語る。新たなステージに挑戦するその姿から、今後も目が離せない。